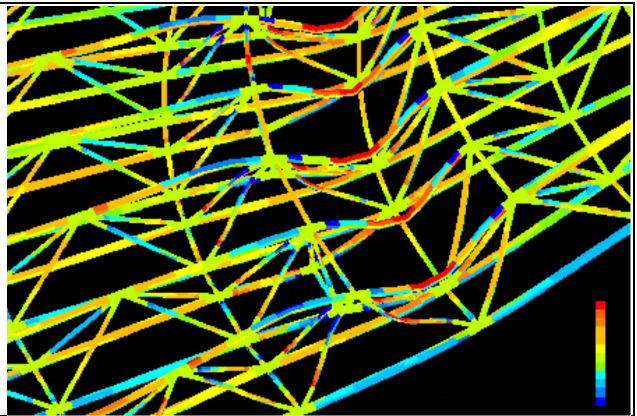


教員の簡単な経歴。

2012 年 4 月に小山高専に来ました。
 その前は、独立して、数値解析・技術コンサルティングを 10 年間。
 その前は、建設会社にて 19 年間、研究開発や設計支援など。
 その前は、学部や修士です。
 博士号は、博士(工学)を 1997 年に。



卒業研究生のテーマ

卒研のテーマは、建築構造の解析(計算)系でおおむねオーソドックスなものを選ぶようにしています。なお希望がある場合は、個別に相談に応じます。

研究室での教育について(本校の方針に付加・補足しながら)。

自発的な学びの育成。

教えていない技術を勝手に学ぶ。最終的にそこまで行けば、社会に出て問題に突き当たっても、自分で突破できると思います。

適切な階段の作成。

で自発的と言っても、学ぶには適切な階段が必要です。階段があると、案外高いところまで登れるものです。ぜひ登って、遠くの景色を眺めてみて下さい。

問題解決能力と問題発見能力。

求められる能力というのは、結局、問題解決能力と問題発見能力しかない、という話があります。ぜひ疑問を持ちながら、卒業研究をして下さい。

社会の仕組みにも関心を。

卒業研究は「深めるためには狭く」になりがちです。この対極として、卒業前の準備も兼ねて、人間の集まりである社会の仕組みにも関心を持ち、制度や理念の理解に努めて下さい。競争より協調。

「競争するなら近くでやるな、顔の見えない誰かとやれ。」と私は考えます。研究室内で皆が伸びる環境を皆で作しましょう。

できれば楽しく。

1 日のうち、睡眠・食事・入浴・通学が計 12 時間あれば、残りは 12 時間。このためもし学校の 8 時間? が楽しくないと、人生の数年間が楽しくなくなります。楽しい中でこそ前向きな努力ができると考えて、なるべく楽しく卒研しましょう。

しつけ。

俗語ですが、あの研究室は「しつけ」ができていて、というような言い方もあるようなので、たまにですが小言を口にする事があるかも。

教員の紹介	
専門的な 守備範囲	特に限定してはいません。 建築の構造に片足を突っ込んでいれば，守備範囲にするかも。 数値計算(解析)系が主ですが，たまにアブノーマルな実験をするかも。
研究業績 (過去の主 筆論文等)	ASCE, Journal of Structural Engineering (米国土木学会構造系論文集) ・ Large deformation of inelastic large space frame. I: Analysis, vol. 126, pp.580-588, 2000.5 ・ Large deformation of inelastic large space frame. II: Application, vol. 126, pp.589-595, 2000.5 日本建築学会(構造系,環境系)論文(報告)集 ・ 非対称鉛直力を受ける大スパン 2 層立体トラスの静的模型実験, AIJ 構論報, No. 436, pp.105-113, 1992.6 ・ スパン直交方向水平力を受ける大スパン 2 層立体トラスの静的模型実験, AIJ 構論報, No. 444, pp.73-82, 1993.2 ・ 試行的な剛性選択法を用いた 1 次元有限要素法による立体骨組の複合非線形解析法, AIJ 構論, No. 490, pp. 139-147, 1996.12 ・ 1 次元有限要素法による大規模立体骨組の複合非線形解析, AIJ 構論, No. 494, pp.75-81, 1997.4 ・ ベタ基礎を有する軽量建物を想定した免震方式の 3 軸振動台実験, AIJ 構論, No. 531, pp. 47-54, 2000.5 ・ 立体鋼骨組の高温崩壊解析法, AIJ 環論, No. 586, pp. 9-16, 2004.12 日本建築学会構造工学論文集 ・ 分割梁法による鉄筋コンクリート立体骨組の解析, No. 35B, pp. 119-132, 1989.3 日本建築学会の WTC 崩壊特別調査委員会報告書の分担執筆 ・ 世界貿易センタービル崩壊特別調査委員会報告書の第 3 編 4 章, 崩壊過程の考察, pp. 191-201, 2003.9 建築雑誌 ・ 見える構造を目指して(色彩でみる建築), No. 1411, p. 54, 1997.9
その他 (受賞・特許 ・資格ほか)	受賞 ・ 1999 年日本建築学会奨励賞 (受賞業績: 1 次元有限要素法による大規模立体骨組の複合非線形解析) 自筆による日本や米国での成立特許。 ・ 特許 4253822 号, 粒子法の解析プログラム, 登録 2009.2 ・ US Patent, No. 7,672,821, Computer readable medium having a program using particle method, Patented 2010.3 ・ 特許 4766355 号, 立体骨組や平面骨組の解析プログラム, 登録 2011.6 資格など ・ 一級建築士, 1984 ・ 技術士(建設部門), 1990 ・ 博士(工学), 1997 ・ 構造設計一級建築士, 2009 計算に使用する言語 Fortran, Scilab, C++builder 計算機を走らせますが, たまに自分で走 ることも。

